

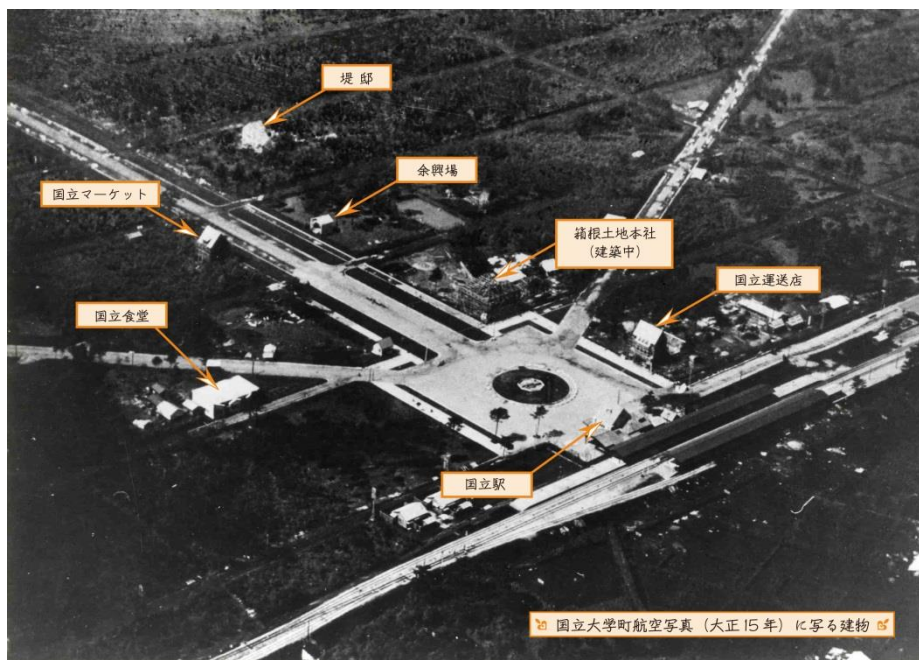
『赤い三角屋根』誕生—国立大学町開拓の景色—展 展示資料の紹介-2



資料 1 国立大学町航空写真 大正 15 (1926) 年 くにとち郷土文化館所蔵

前回につづいて当館が所蔵する写真資料の紹介です。資料 1 は、分譲間もない頃の国立のまちを、国立駅の駅前広場辺りを中心として上空から撮影した写真です。

駅前地域といえどもまだ数えるほどの建物しかなく、その多くは雑木林によって占められています。創建時の国立駅の駅舎をはじめ、この度の展示では国立大学町分譲当初の建造物についてもピックアップして紹介していますが、資料 1 に写し撮られているものを表示すると下のようになります。



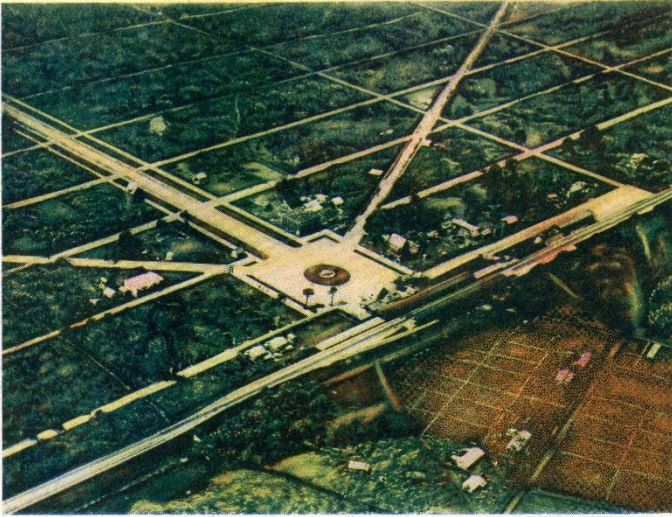
資料 1 について「分譲間もない頃の国立のまち」を撮影していると紹介しましたが、ここに収められているまちの様子は、いったいどのくらいの時期のものだったのでしょうか？資料 1 が撮影された時期を探ってみることにしましょう。

箱根土地株式会社（以下「箱根土地」とします。）が作成したチラシ類を確認すると、資料 1 とオリジナルが同じ写真を用いたとみられる案内があります。資料 2 がその案内です。

◇ 国立は南下りの松林で夏涼く冬暖い郊外の情趣豊かな緑の様な住宅地です。百萬坪が整然と区劃されて居ます。国立は水道下水電話電熱等完備し小學校高等音樂學院郵便局等もあります。道路がよいかから足駄がいりません。

◇ 国立は東京驛迄一時間定期券を買へば一日何回乗つても僅かに十六錢です。京王電車も府中から延長致します。国立は商大が来る四月に引越してすぐ販ひますから商店を開けば有望です。間もなく數千戸の學都になります。

◇ 国立は開けるに従ひ地價が日増に騰貴しますから投資物として絶好です。常に蓄買がある故轉賣も自由です。




(月三年五十五正大)いさ下覽御らかどまの車汽にり歸御すで立國な名有は、こ
(影撮りよ機行飛)

(在現日七月三)表刻時車汽拜參陵御
いさ下せ合開御に場車停の寄最らかすまりあが更變々時

午後		午前	
上り	下り	上り	下り
九七二〇	〇七二〇	〇七二〇	九七二〇
七二二〇	二〇二〇	二〇二〇	七二二〇
五二二〇	〇二二〇	〇二二〇	五二二〇
三二二〇	〇四二〇	〇四二〇	三二二〇
一三二〇	〇六二〇	〇六二〇	一三二〇
〇三二〇	〇八二〇	〇八二〇	〇三二〇
〇五二〇	〇九二〇	〇九二〇	〇五二〇
〇四二〇	〇七二〇	〇七二〇	〇四二〇
〇二二〇	〇五二〇	〇五二〇	〇二二〇
〇一〇〇	〇四二〇	〇四二〇	〇一〇〇
〇〇二〇	〇三二〇	〇三二〇	〇〇二〇
〇〇二〇	〇二二〇	〇二二〇	〇〇二〇
〇〇二〇	〇一〇〇	〇一〇〇	〇〇二〇
〇〇二〇	〇〇二〇	〇〇二〇	〇〇二〇

すまし轉運日毎中の分當は印▲
すまし轉運り線に日祭曜日中月三は印×
すまし轉運り線に合場の數多者拜參他其日祭曜日は印◎

飛渡館龍博 編 採



◇ 混雑せぬ御歸りの道案内

多摩御陵參拜のお歸りは、国立驛へ途中下車して其切符で國分寺から省線電車にお乗り替へ下さい。

国立から國分寺へは、たへず會社の自動車で(無料・七分間)お送り致します、國分寺からは廿四分毎に電車が出ます、始發驛ですから混み合ひません。

目下国立まで省線電車延長の工事中です、近く国立へも電車が開通します。

箱根土地株式会社
本社 東京市外国立(中央線国立驛前)
電話 國分寺七番五一番
東京驛前丸ノ内ビルディング
電話 三三五五・三七五六・二七五七

資料 2 国立案内 昭和 2 (1927) 年 くにたち郷土文化館所蔵

ちょっと脇道にそれますが、せっかくだから資料 2 についてみてみましょう。

資料 2 は、ちょうど葉書ぐらいのサイズの案内で、1 面に資料 1 とオリジナルが同じとみられる航空写真と国立についての案内文を掲載し、もう 1 面では「混雑せぬ御帰りの道案内」として、多摩御陵の参拝客に対して国立での途中下車を促しているものです。多摩御陵とは、南多摩郡横山村、浅川村および元八王子村（いずれも現 八王子市）における武蔵陵墓地に造営された大正天皇の陵墓「^{たまのみきぎ}多摩陵」のことで、参拝期間（昭和 2・1927 年 2 月 13 日から 4 月 4 日までの内の計 50 日間）に約 90 万人が参拝したとされています¹。この多摩御陵へ多くの参拝客が訪れるという状況を逃すことなく、箱根土地は参拝客をターゲットにした案内を作成し、国立における分譲地の販売促進を図ろうとしていたようです。

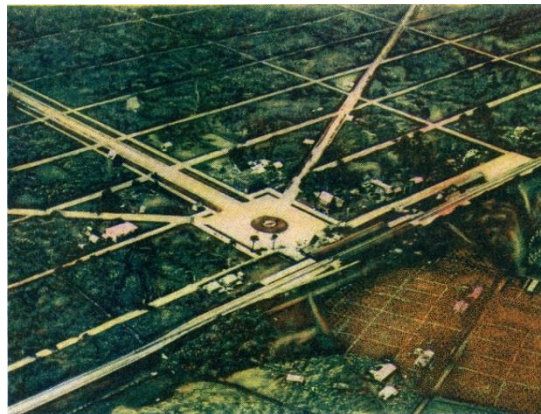
掲載されている国立についての案内文をみると、「国立は商大（現 一橋大学：引用者）が来る四月に引越してすぐ賑ひますから商店を開けば有望です。」とあります。国立へと引っ越してくる「商大」とは、昭和 2 年 4 月に現在の一橋大学東キャンパスへと移転した、東京商科大学商学専門部および商業教員養成所を指しているとみられます。案内文の裏面に掲載されている「御陵参拝汽車時刻表」に、「三月七日現在」との表記があることも加味すると、資料 2 は昭和 2 年 3 月において箱根土地が作成した案内と考えられます²。

さて、戻って資料 1 と資料 2 の掲載写真をみてみましょう。

資料 2 に掲載されている航空写真には着色がされています。また、資料 1 に比して幾分広い範囲が収められた写真でもあります。この様な相違はありますが、それぞれを並べてみるといずれもオリジナルは同じ写真であると考えられるのですが、いかがでしょうか。



資料 1



資料 2 の掲載写真

- ¹ 八王子市市史編集委員会編『新八王子市史 通史編 5 近現代（上）』（八王子市、平成 28 年 3 月 31 日）631 頁～639 頁。「三月下旬には毎日三か村〔横山村・浅川村・元八王子村：引用者〕の人口と同数の参拝者が各地から押し寄せ、休日にはそれが倍近くに跳ね上がった。」（638 頁）とされています。
- ² 掲載されている「御陵参拝汽車時刻表」にある国立発の時間について、鉄道博物館所蔵の『汽車時間表 附汽船自動車発著表』昭和 2 年 3 月号（鉄道省運輸局編纂）と比較したところ、省略などがあるものの概ね一致していました。なお、国立の案内文に、「国立は水道下水電話電熱等完備し小学校高等音楽学院〔東京高等音楽学院（現 国立音楽大学）：引用者〕郵便局等もあります。」との記述がみられます。この「郵便局」は、昭和 2 年 4 月 1 日に開局した国立郵便局のこととみられ、案内作成を同年 3 月とするとまだ開局していないこととなります。ただ、2 月 15 日には逓信大臣から郵便局新設の許可を得ていることから、既設施設と同様の記述をなしたものと考えられます。

資料 2 の掲載写真には、「こゝは有名な国立です御帰りに汽車のまどから御覧下さい」と添えられており、多摩御陵参拝客へ国立のまちを宣伝しています。さらに括弧書で「大正十五年三月 飛行機より撮影」と記し、写真の撮影時期などが示されています。この括弧書に拠るならば、資料 2 の掲載写真は、大正 15 (1926) 年 3 月に撮影されたものとなります。加えて、資料 2 の掲載写真とオリジナルが同じであると考えられる資料 1 についても、大正 15 年 3 月に撮影されたと判断されそうです。

と、ここでちょっと待ったあ！なのです。この撮影時期には疑問があるのです。

資料 1 の駅前広場の中央にある円形の部分（現在の円形公園のところ）をよ〜く見てください。円形部分の中央に、現在の円形公園にある池に近い八角形状のものが据えられています。



資料 1 を拡大・加工



2019 年 11 月 29 日撮影分を拡大・加工

前回の資料紹介で触れましたが、現在の駅前広場の円形公園にある池のところには、国立駅の開業後に水禽舎が設置されていました。

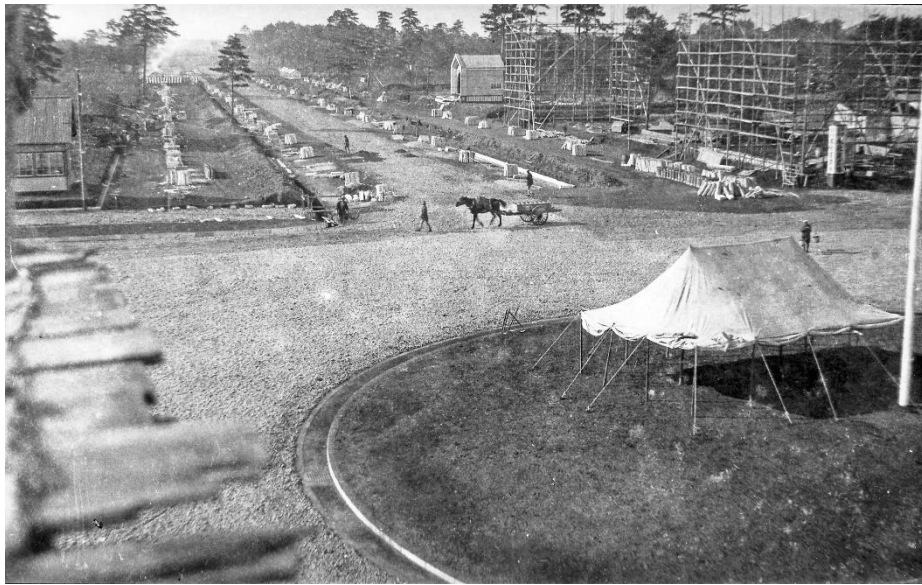
お気づきになりましたでしょうか？ここで気づきになった方はかなり鋭い！脱帽です。そうなのです。駅前広場に水禽舎が設置されたのは国立駅開業“後”なのです。

国立駅開業時この部分は円形の広場となっており、国立駅開業日の大正 15 年 4 月 1 日にはここで開業式典が執り行われています（資料 3）。また、その後 4 日間に亘って行われた開業祝賀会の様子を収めた写真をみると、この円形の広場にテントが設置されているのが確認されます。このテントでは楽隊の演奏といった催しが行われたようです³。

³ 渡辺彰子『国立に誕生した大学町―箱根土地（株） 中島陟資料集一』（株式会社サトウ、平成 27 年 8 月 2 日）56 頁上段掲載の写真は、国立駅開業祝賀会の様子を、国立駅ホームより駅前広場・大学通り方面に向けて撮影した 1 枚で、円形の広場部分にテントが設置されていたことが分かります。また同書 55 頁下段の写真には、円形の広場と設置されたテント、「カルメン」と判読できる看板状のものが写っています。この写真には「駅前広場にて陸軍の楽隊の演奏（カルメン）」の裏書があるとされています。



資料3 国立駅開業式典（来賓祝辞） 大正15（1926）年
明窓浄机館所蔵（中島陟資料）

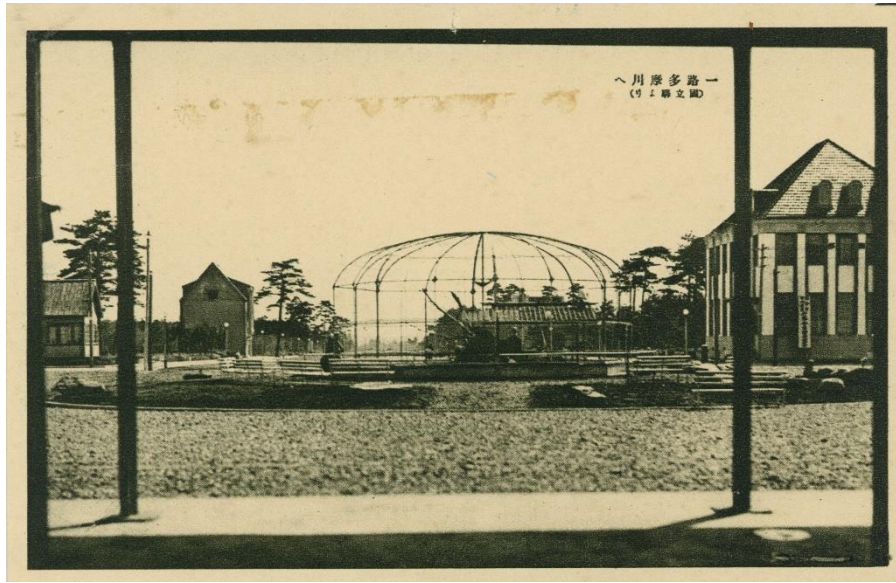


資料4 造成中の大学通り 大正15（1926）年
明窓浄机館所蔵（中島陟資料）

資料4は、国立駅開業祝賀会の開催時あるいは開催直後に撮影されたのではないかとみられる1枚。円形の広場に設置されているテントは、開業祝賀会の様子を収めた写真にも写し撮られており、そこで催しが行われていたものです。

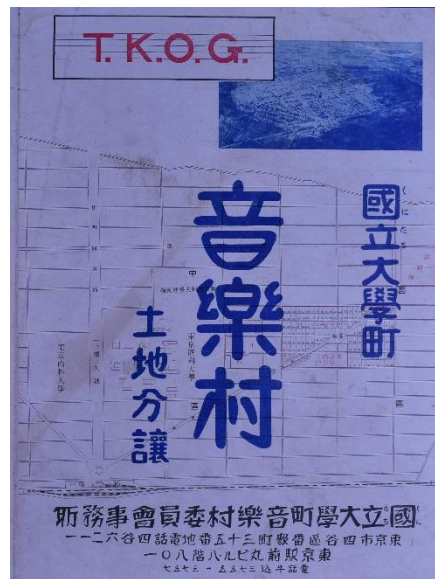
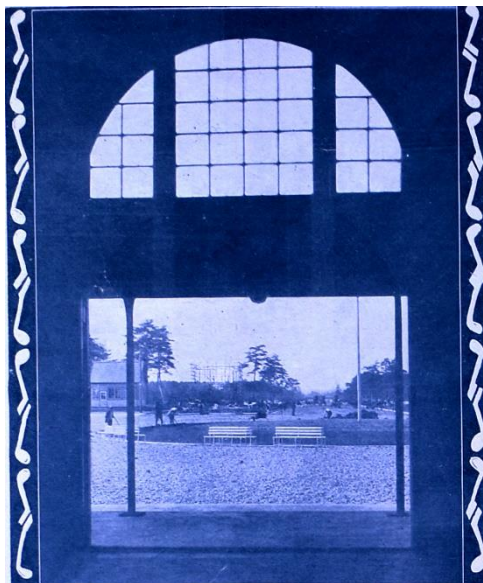
駅前広場にある現在の円形公園は、国立駅開業時はまだ何も造成されておらず、ただの円い広場であったのです。その後水禽舎が設置されますが、その造成がはじまったのは早くとも国立駅開業祝賀会の終わった大正15年4月5日以後であったとみられます。

これでお分かりいただけましたでしょうか。水禽舎が設置されている、あるいはその造成工事らしき形跡が認められる資料1の写真を、国立駅開業前である大正15年3月の撮影とすると、写し撮られている事物に時期の合致しない部分がでてしまうのです。



資料5 絵葉書：一路多摩川へ（国立駅より） 昭和2（1927）年
くにたち郷土文化館所蔵

資料5は、当時の国立駅舎から大学通り方向を撮影した写真による絵葉書。駅舎全面の底を支えるレール柱の間に水禽舎がみえています。



資料6 駐車場内より見たる一ツ橋大通り 『国立大学町 音楽村土地分譲』掲載写真より
大正15（1926）年 くにたち郷土文化館所蔵

資料6は、音楽村の分譲案内に掲載された写真。資料5と似たような構図になっていますが、駅前広場に水禽舎が設置される前に撮影されたものであることが分かります。

では、国立駅の駅前広場へと水禽舎が造成・設置された時期から、資料1の撮影時期を探れるかという、なかなかどうしてこちらもうまく絞り込めません。何故かという、水禽舎がいつ造成され、いつごろ完成したのかははっきりしていないのです。前回の資料紹介で水禽舎の収められた写真資料の撮影時期や、その写真を用いた箱根土地の絵葉書の制

作時期を探りました。これらの時期から鑑みて、水禽舎は遅くとも大正 15 年 8 月頃までには完成していたのではないかと考えられ、その造成・設置は大正 15 年 4 月から同年 8 月の間になされたものとみられます。水禽舎の設置、あるいはその造成工事らしき様子が写し撮られている資料 1 の撮影時期も、この間にあると考えてよいのではないのでしょうか。

さて、もう少し絞り込める要素があります。それが駅前広場の南西角、現在の多摩信用金庫 国立支店がある位置に建っていた箱根土地本社の建築です。



資料 7 建築中の箱根土地本社 大正 15 (1926) 年
明窓浄机館所蔵 (中島陟資料)

資料 7 は国立駅側から駅前広場および大学通りに向かって撮影された 1 枚です。右にある建築中の建物が箱根土地の本社屋となるものです。左にある水禽舎では、既にケージが据えられているのを確認できます。資料 1 と資料 7 に写る本社屋を比較すると、資料 1 よりも資料 7 の屋根の仕上げが進んでいる点が認められますから、資料 7 は資料 1 より後に撮影されたものと考えられます。

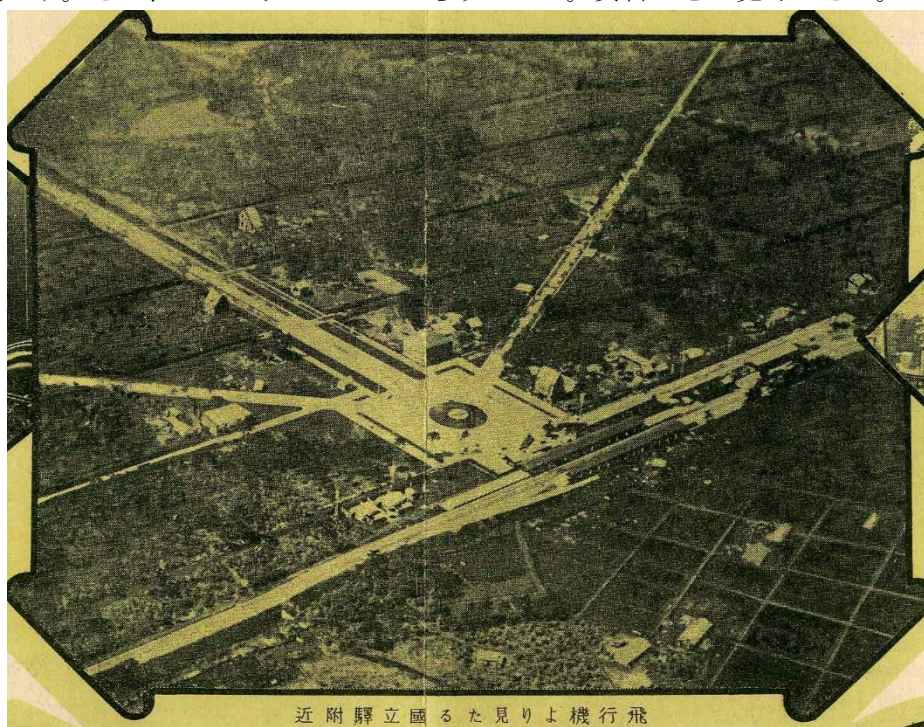


資料 1 を拡大

箱根土地の本社については、箱根土地の第14回報告書（大正15年下半期：大正15年6月1日～同年11月30日）でその完成が報じられています⁴。また、大正15年6月29日には国立の本社で第13回定時株主総会が開催されている⁵ので、この年の6月には本社の建物は完成していたとみられます。

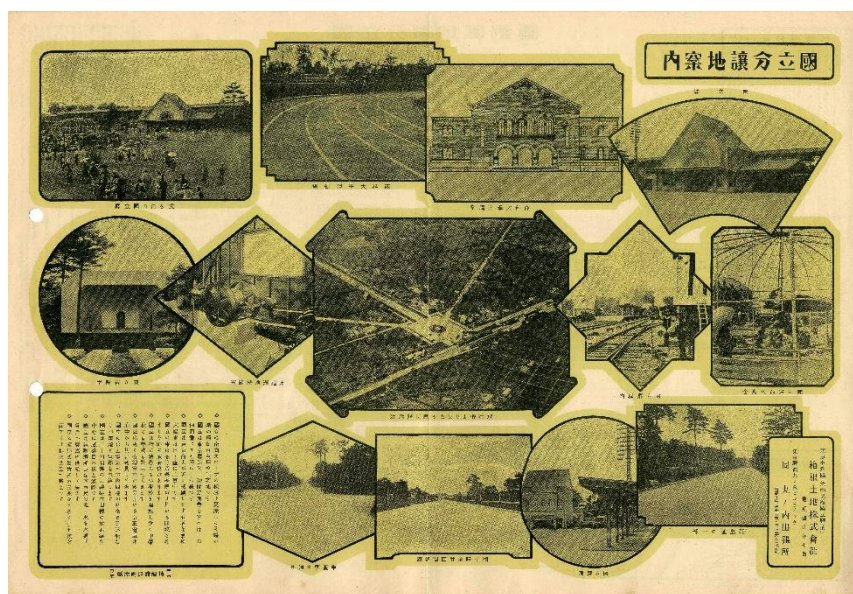
水禽舎の造成・設置時期⁶および箱根土地本社の建築状況⁷から判断すると、資料1が撮影された時期は、資料2で記されている大正15年3月ではなく、同年4月から6月の間、すなわち「大正15年5月前後」と考えるのが妥当ではないかと考えられるところです。

いかがだったでしょうか？この度もまたもやマニアックな世界へと引き込んでしまいました。ここまでお付き合いいただき、ありがとうございました。写真資料は、写されたあるいは写ってしまった事物を検討してみると面白い発見をすることがあります。箱根土地による案内などには写真を多用したものがありますので、ちょっと意識して眺めてみるのも一興です。さて、マニアックついでにもうひとつ。資料8をご覧ください。



資料8 飛行機より見たる国立駅付近『国立分譲地案内』掲載写真より

- 4 「国立大学町本社事務所外諸建物拾参棟ヲ建築完成セリ」（箱根土地『第十四回報告書』大正15年下半期 3頁）。
- 5 箱根土地『第十四回報告書』（大正15年下半期）4頁に「大〔大正：引用者〕拾五年六月式拾九日東京府北多摩郡谷保村青柳八九四番地本社ニ於テ第拾参回定時株主総会ヲ開キ左ノ議案ヲ付議シタリ」との記述があります。
- 6 資料7には、判然としませんが水禽舎を覗いている人がいるようです。箱根土地本社の完成前に水禽舎が完成していたならば、水禽舎は大正15年6月までに設置されていたこととなります。
- 7 資料1に写る建築中の箱根土地本社は、柱や梁などの構造材がある程度組み上げられているようにみえます。これに対して国立駅開業祝賀会を収めた写真にみられる箱根土地本社の建築状況は、明瞭でないものの足場が組まれた段階で柱などは建っていないようにみえます。この箱根土地本社の建築状況から考えても、資料1は国立駅開業した後になってから撮影された可能性があるものです。



資料 8-2 国立分譲地案内 大正 15 (1926) 年 くにたち郷土文化館所蔵

資料 8 は、「大正十五年九月一日現在」の記述がある箱根土地による分譲案内 (資料 8-2。前回も紹介。) に掲載されている写真です。資料 1 とオリジナルが同じ写真を用いたとみられるものではあるのですが、箱根土地本社と堤邸の建物が資料 1 と異なっているようにみえ、箱根土地本社は外観が完成しているように感じるのですがいかがでしょうか？



資料 8 を加工



資料 1

単純に考えれば、資料 1 より後に撮影した写真を使用しているということになるでしょうが、このように全く同じ構図による撮影が飛行機からできるものなのでしょうか？よく見ると駅前広場にある木々の影の位置まで同じなのです。あるいは写真に加工を施してあるものなのでしょうか？

何かしらお気づきの点がありましたら、くにたち郷土文化館までお知らせいただくと助かります。ご連絡をお待ちしております。

【2020.04.11：中村記】